

東京の高齢者と介護保険 データ集

令和5年6月

福祉保健局高齢社会対策部

人口の推移(東京都)

東京都における高齢化率は、総人口がピークを迎える令和12(2030)年には23.4%であり、令和22(2045)年には27.3%とおおよそ4人に1人が高齢者になると推計されます。



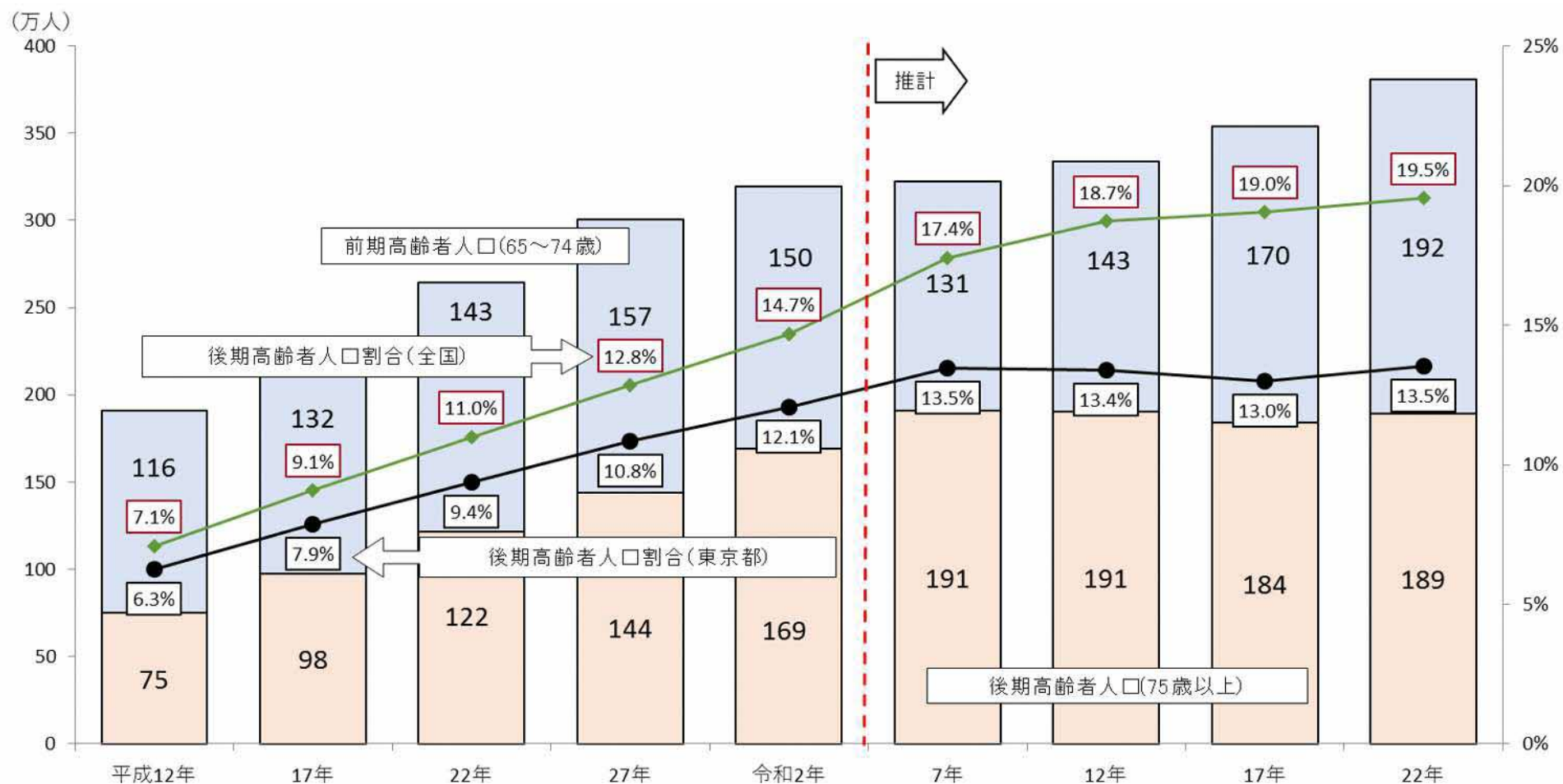
注：昭和60年～平成22年の総数は年齢不詳を含まない。

注：1万人未満を四捨五入しているため、内訳の合計値と一致しない場合がある。

出典) 総務省「国勢調査」[平成12年～令和2年]、東京都政策企画局による推計[令和7年～令和22年]

高齢者人口の推移(東京都)

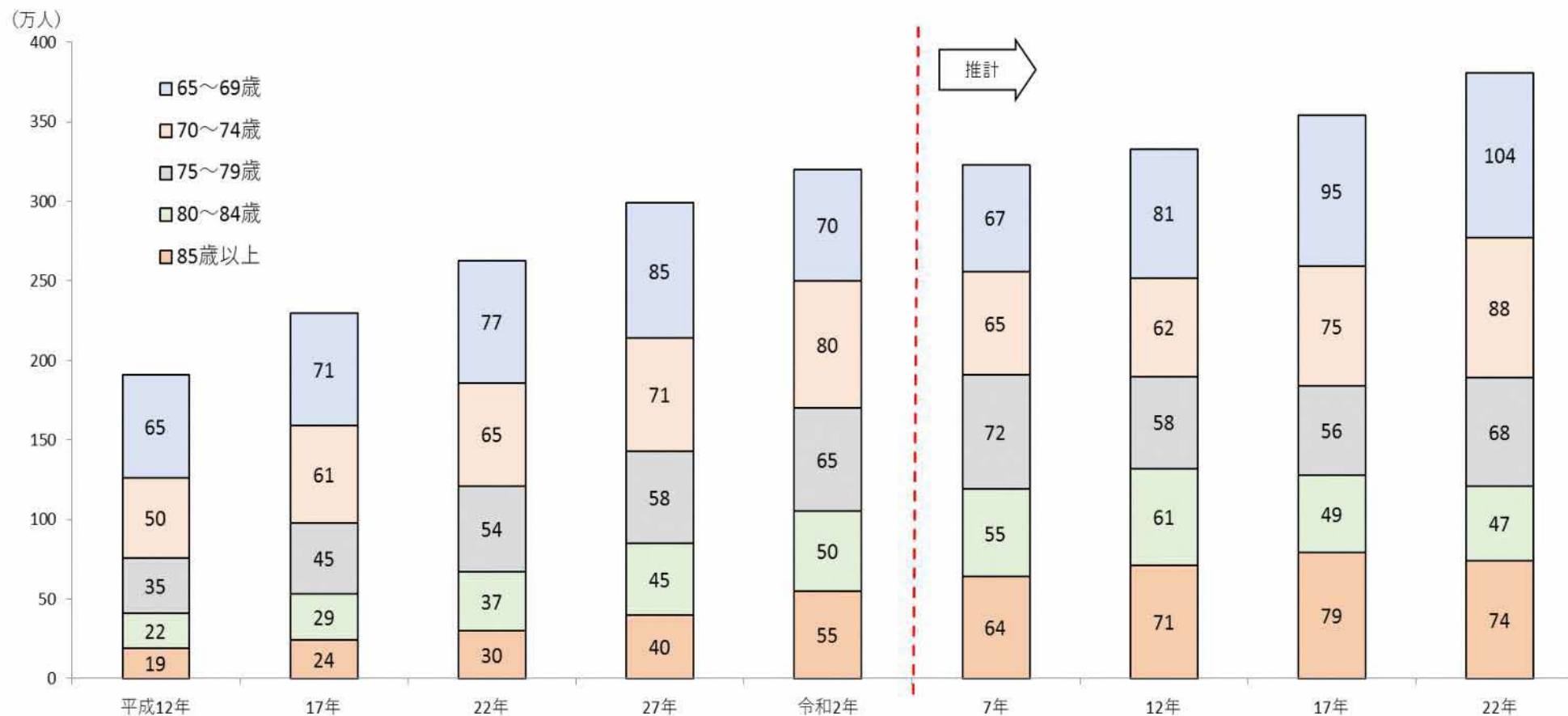
後期高齢者の割合は年々上昇し、令和7(2025)年には東京都の後期高齢者人口割合は13.5%になります。



出典) 総務省「国勢調査」[平成12年から令和2年まで]、東京都政策企画局による推計[令和7年~令和22年]

高齢者人口の推移(東京都)5歳刻み

後期高齢者の割合は年々上昇し、令和2(2020)年から令和17年(2035年)にかけて後期高齢者が前期高齢者人口を上回ります。



出典) 総務省「国勢調査」[平成12年から令和2年まで]、東京都政策企画局による推計[令和7年～令和22年]

特別養護老人ホーム(従来型／ユニット型の経営状況)

- 利用率は従来型で94.4%、ユニット型で93.6%となっており、従来型は全国よりも高く、ユニット型は全国を下回る。
- 収益面では入所者1人1日当たりサービス活動収益が、従来型・ユニット型ともに全国を上回る。
- 費用面では、従事者1人当たり人件費が従来型・ユニット型ともに全国を上回り、人件費率も従来型(67.3%)、ユニット型(64.2%)ともに全国を上回る。
- サービス活動増減差額比率は、従来型(1.3%)、ユニット型(3.3%)となり、いずれも全国を下回る。

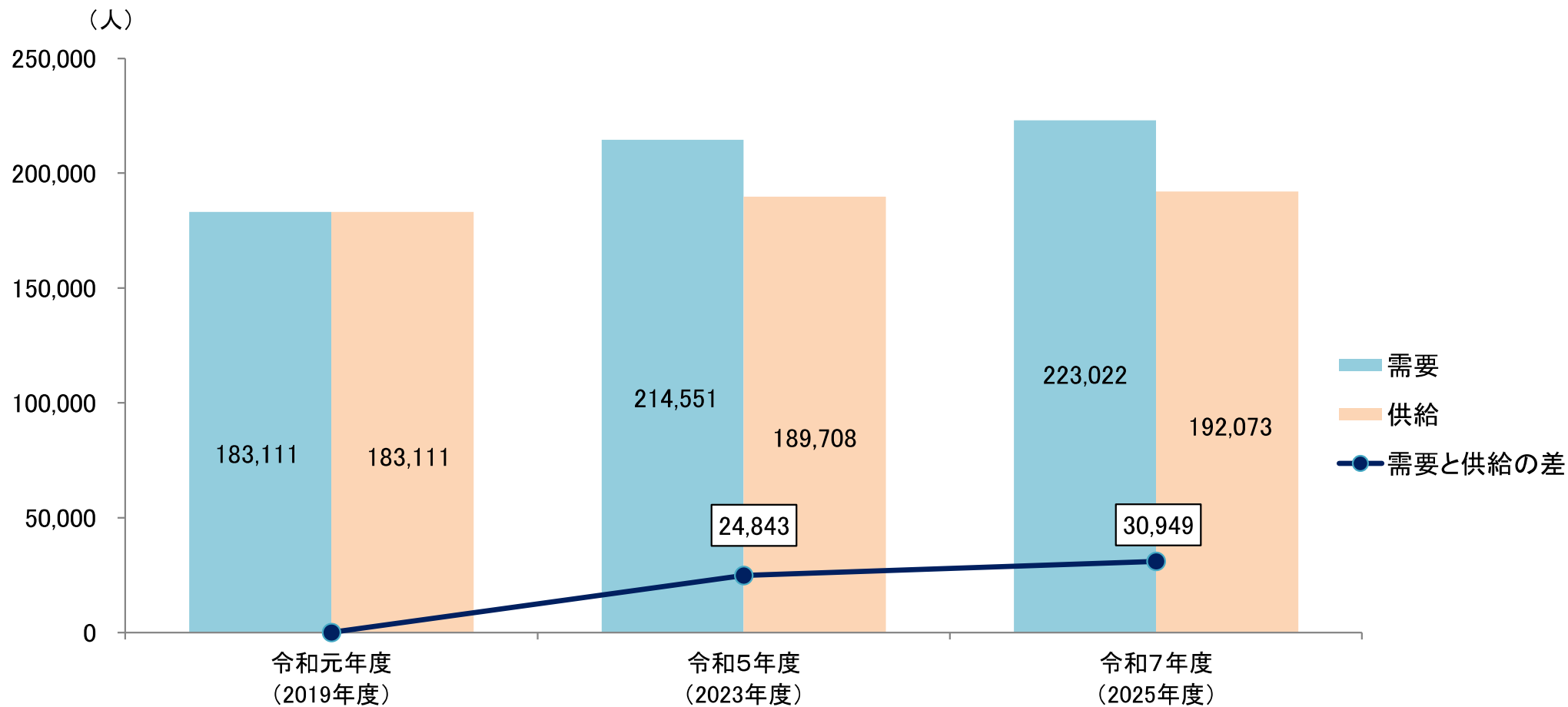
区分	従来型			ユニット型			
	東京都 n=142	全国 n=1,756	差 東京都-全国	東京都 n=97	全国 n=3,190	差 東京都-全国	
機能性							
定員数	人	95.6	70.3	25.2	94.7	58.4	36.3
利用率	%	94.4	93.7	0.7	93.6	93.8	△ 0.3
要介護度	—	3.99	3.98	0.01	3.90	3.88	0.02
入所者1人1日当たり サービス活動収益	円	13,732	12,406	1,327	15,116	14,565	551
従事者の状況							
利用者10人当たり従事者数	人	6.70	6.68	0.02	7.66	7.98	△ 0.32
うち介護職員	人	4.32	4.20	0.12	5.45	5.44	0.01
うち看護職員	人	0.58	0.62	△ 0.05	0.59	0.65	△ 0.06
従事者1人当たり人件費	千円	5,407	4,468	940	5,025	4,202	823
収支の状況							
サービス活動増減差額比率	%	1.3	1.4	△ 0.1	3.3	4.8	△ 1.5
人件費率	%	67.3	65.9	1.4	64.2	63.1	1.1
経費率	%	26.9	28.3	△ 1.3	26.6	24.7	1.9
減価償却費率	%	4.1	4.2	△ 0.2	5.4	7.2	△ 1.8
赤字割合	%	48.6	42.0	6.6	36.1	30.5	5.6

出典:独立行政法人福祉医療機構

「令和4年度 施設・居住系サービス事業者運営状況調査別冊資料1『各種施設の東京都内経営指標と全国経営指標の比較分析』(令和5年) p.7

介護人材の需給推計(東京都)

- 都内における介護職員数は、令和7(2025)年度には約3万1千人の介護職員の不足が見込まれる。
- この需要ギャップを埋めるため、東京都は引き続き、中長期的な視点で介護人材の確保・定着・育成対策を総合的に推進していく必要がある。



※第8期計画策定時点(令和2年度)等

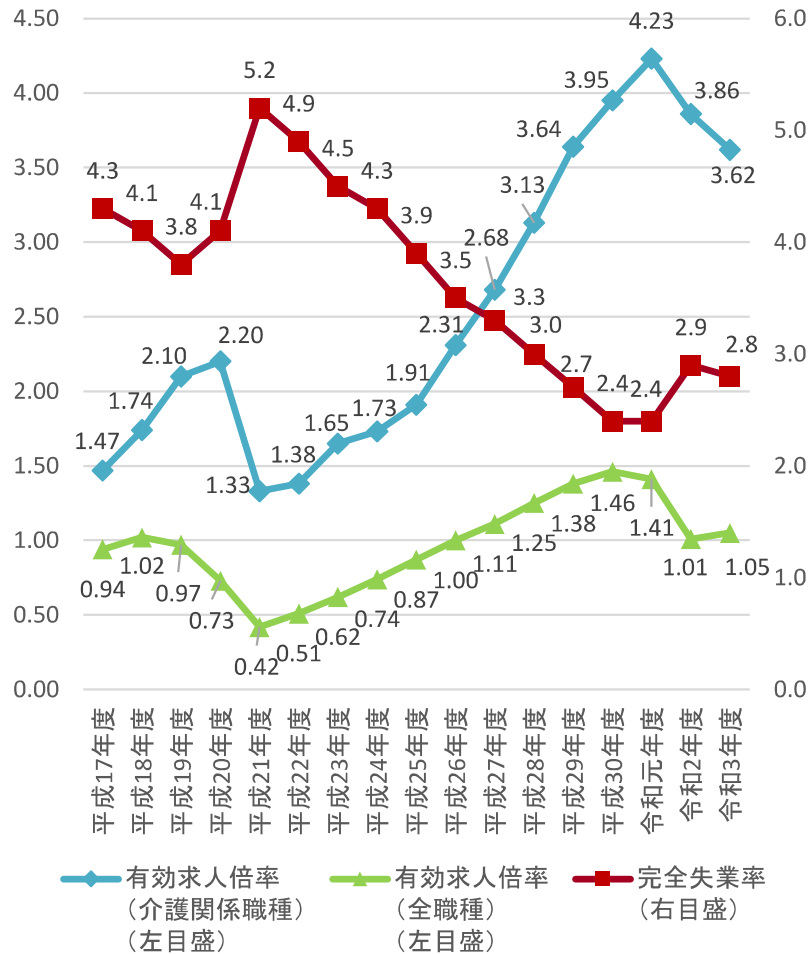
出典:東京都高齢者福祉保健計画(令和2年度~令和5年度)

介護分野における人材確保の状況と労働市場の動向

○令和元年度を境に有効求人倍率は減少するも、令和4年度は回復傾向にある。
 ○東京都における令和4(2022)年度介護関連職種の有効求人倍率は5.91倍と、全職業の3.74倍を大きく上回っており、人手不足が深刻である。

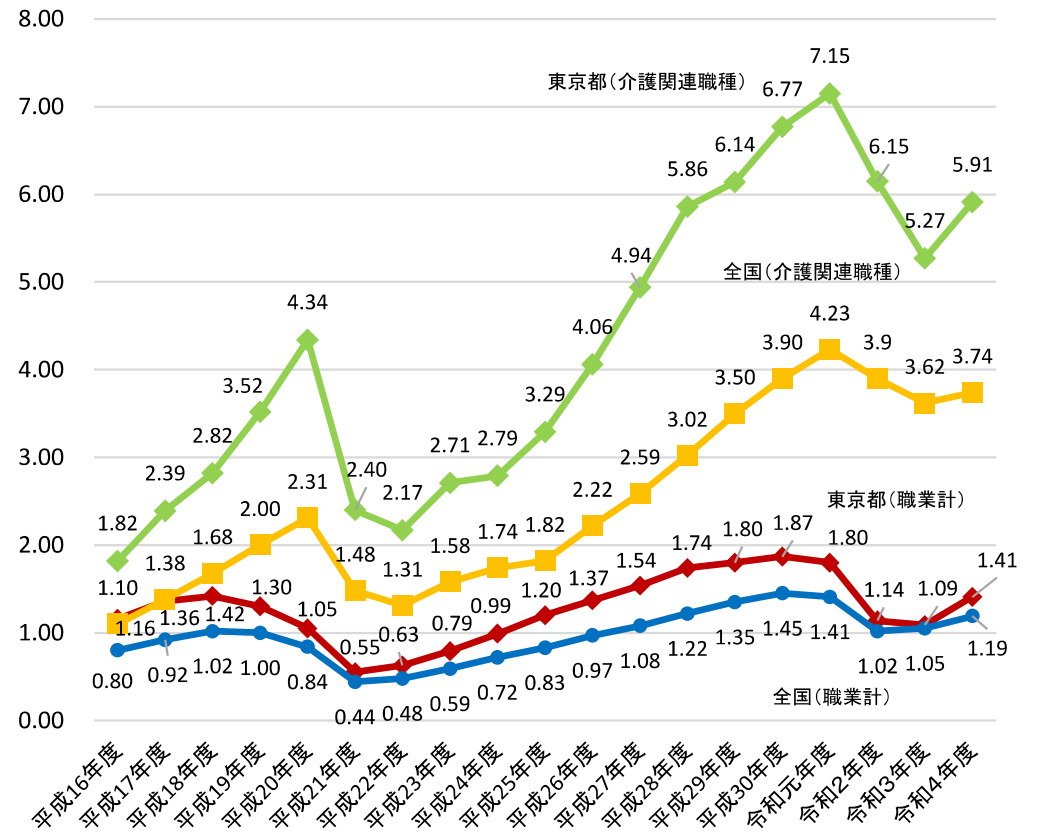
【(日本全体)介護関連職種と失業率の関係】

有効求人倍率(介護関係職種)と失業率
 【平成17(2005)年度～令和3(2021)年度／年度別】



【(東京)介護関連職種と職業計の比較】

有効求人倍率の推移(東京都)

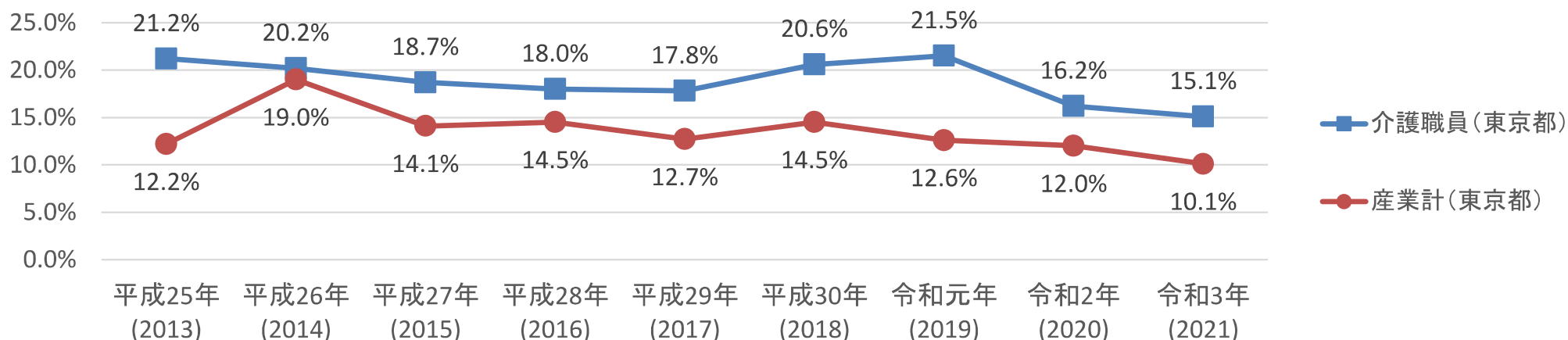


出典:厚生労働省職業安定局「職業安定業務統計」
 ※有効求人倍率は令和4年2月まで(年間の数値は4月下旬に確定)

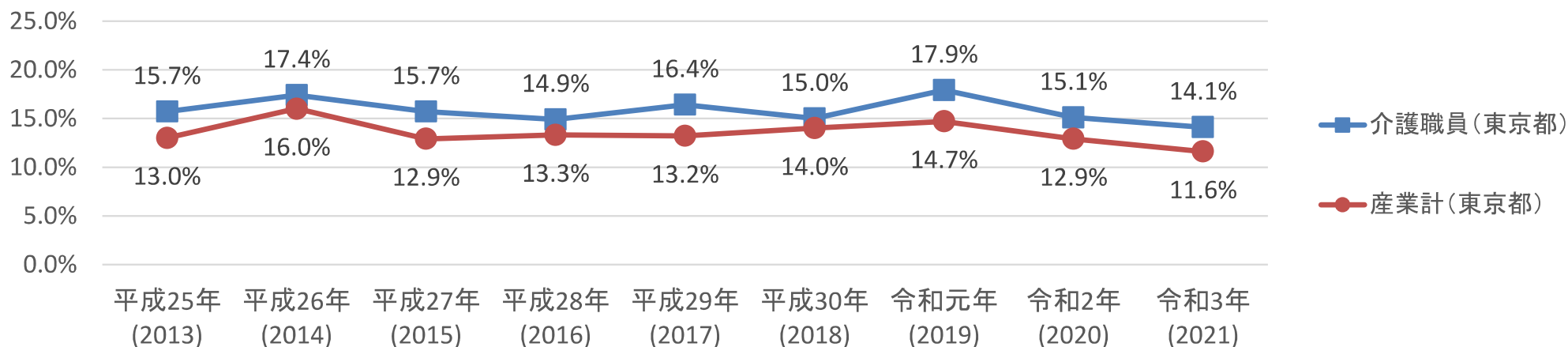
採用率・離職率の状況

- 採用率は介護職員が高い水準にあり、2020年より介護職員・産業計ともに採用率が低下傾向である。
 ○介護職員の離職率は、産業計に比べてやや高い水準である。

【介護職員と産業計の採用率の比較】



【介護職員と産業計の離職率の比較】



(注)採用(離職)率=1年間の採用(離職)者数÷労働者数

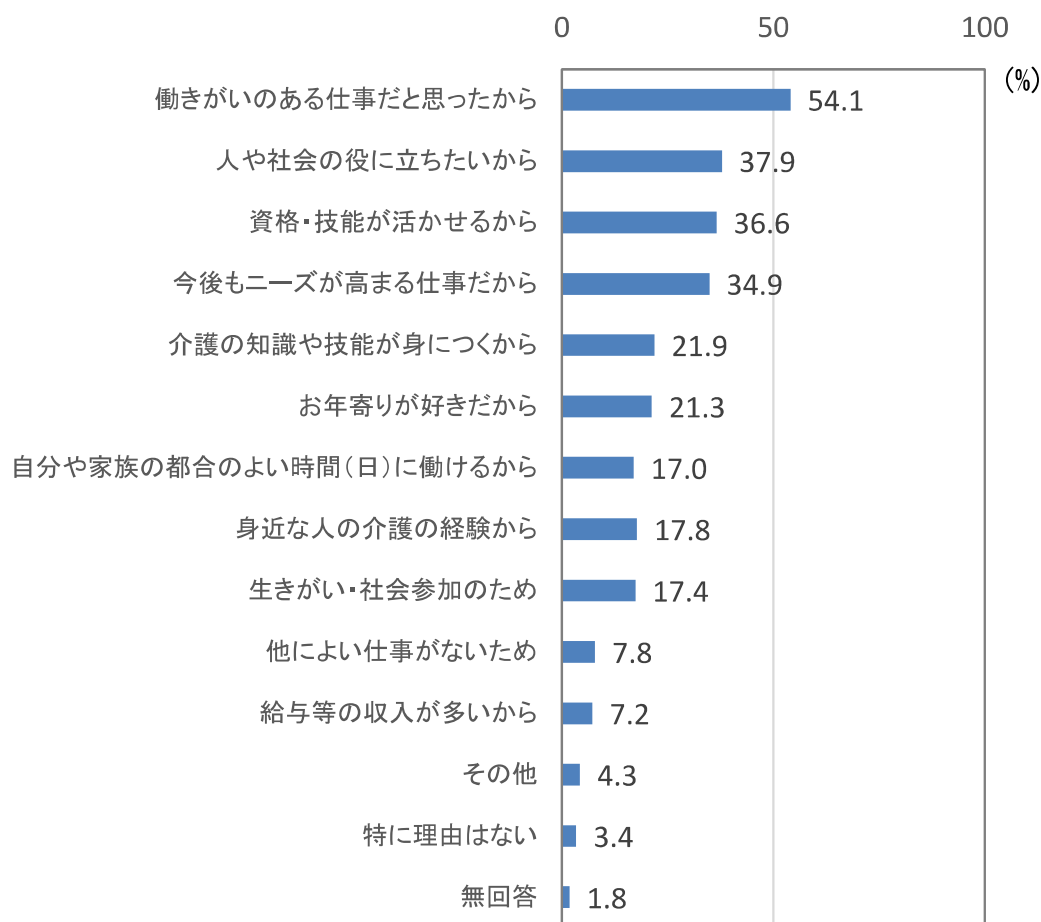
出典:介護職員の採用(離職)率:(公財)介護労働安定センター「介護労働実態調査(東京都)」、産業計の採用(離職)率:厚生労働省「雇用動向調査」

介護労働者の就業実態①（東京都）

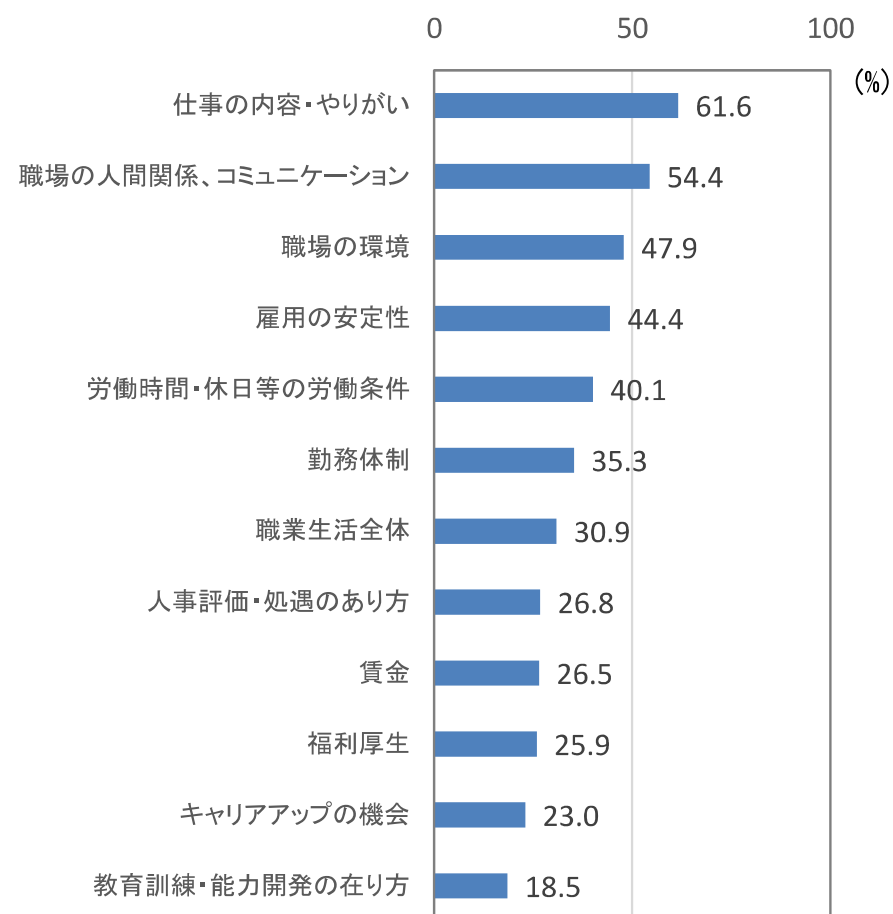
○現在の仕事を選んだ理由として、「働きがいのある仕事だから」と回答した者が最多である。

○現在の仕事の満足度では「仕事の内容・やりがい」が61.6%と最も高く、次に「職場の人間関係、コミュニケーション」54.4%が高い。

【現在の仕事を選んだ理由(複数回答)】



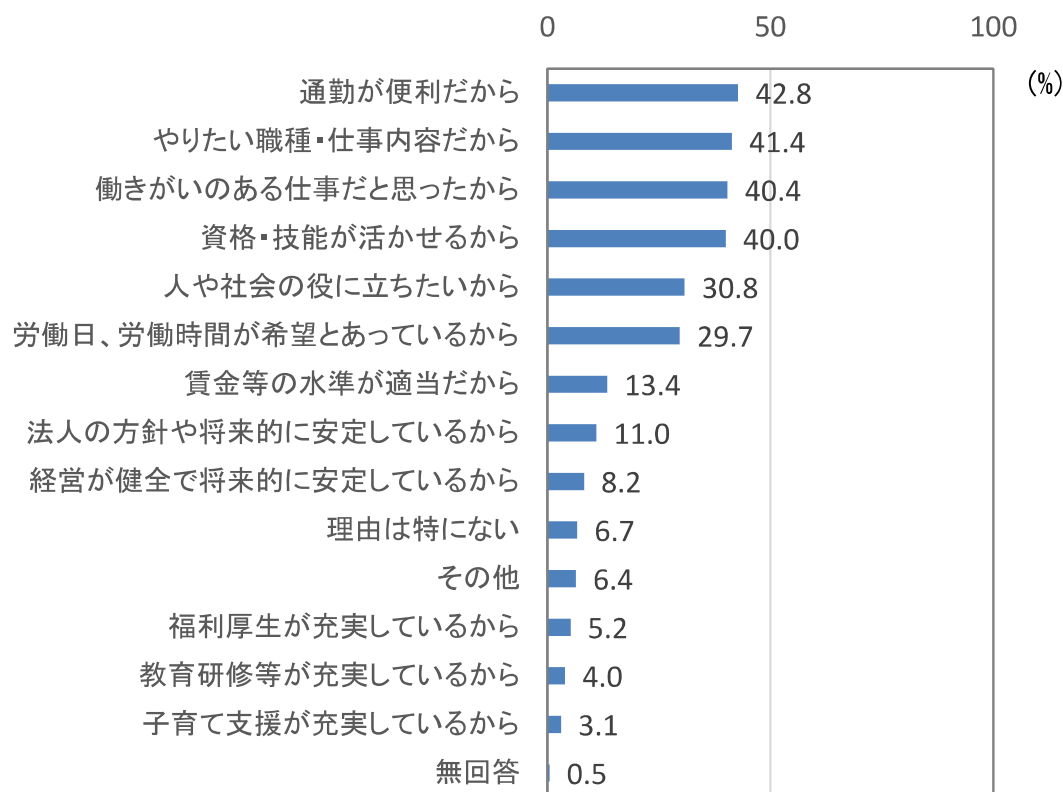
【現在の仕事の満足度】



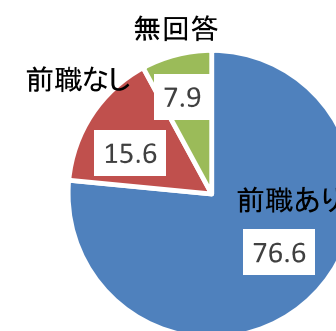
介護労働者の就業実態④（東京都）

- 現在の法人に就職した理由として、「通勤が便利だから」、「やりたい職種・仕事内容だから」と回答する者が多い。
- 新規入職者の約76.6%が「前職あり」と回答し、再就職者が多い。
- 前職の仕事内容として、介護関係は約3割にとどまり、他分野からの就職者が多い。

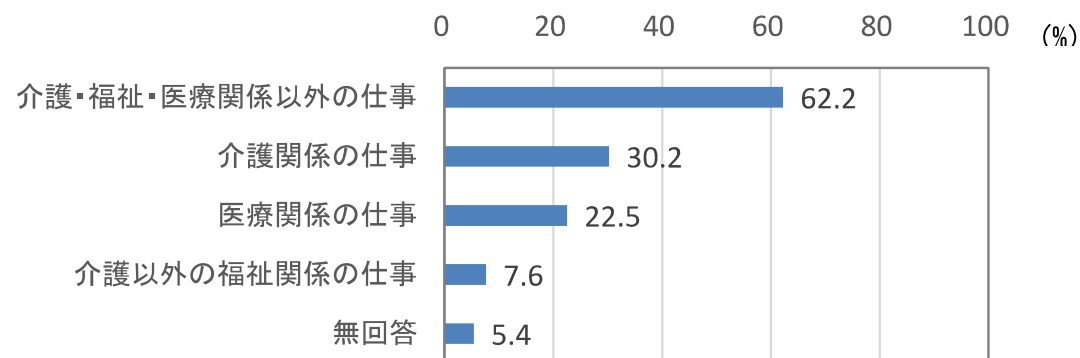
【現在の法人に就職した理由（複数回答）】



【入職者の構成】 （前職の有無）



（前職の仕事内容）



出典：(公財)介護労働安定センター「令和3年度介護労働実態調査 介護労働者の就業実態と就業意識調査」